

都市づくり上の課題

“町民に愛されている自然と大地”を次世代に継承し、“街の基盤が形成された20世紀”を語り継いでいくため、自然環境と歴史環境からなる都市の骨格構造を構築します。

長期的・広域的な視点での“まちづくりの哲学”に基づきながら、総合計画等と連動した“実現可能な都市づくり”を進めることが必要不可欠です。

“地域の発展とともに顕著となった都市全体にわたる重要課題”と“住民が身近に感じている地域の個別課題”を解決する取り組みが急務です。

都市像

環境首都 なかしべつ

都市づくりの基本目標

自然と大地を次世代に継承し、街の基盤が形成された20世紀を語り継いでいくため、自然環境と歴史環境からなる都市の骨格構造を構築します。

住民ひとりひとりの人生を豊かにするための地域への夢や希望を目指すため、交流・共生・自律をテーマとした拠点づくりと軸づくりからなる都市構造を形成します。

総合計画を上位計画とし、行政と住民のパートナーシップのもと、実効性の高い施策を展開するため、安全・安心、交流・活力、自律・共生、快適な冬をテーマとした市街地中心の活性化と公的環境のネットワーク化を図ります。

都市全体構想

ミレニアムプラン

自然 “都市化以前の状態に近い良好な自然”に該当する自然環境を大切にものとして位置づけます。
・骨格的な河川としての標津川
・河岸段丘などの特徴的な地形
・夢の森公園や森林公園周辺、国有防霧防風保安林の緑地
・武佐岳への眺望を確保する空間
・“積極的な利用を図るべき土地”(利用ゾーン)
・“自然との共生に配慮すべき土地”(共生ゾーン)
など

歴史 “開拓から近代化にいたる歴史の語り部”に該当する歴史環境を大切にものとして位置づけます。
・基幹産業の発展に貢献した国有防霧防風保安林、農業試験場、鮭鱒ふ化場
・街の発展や人・ものの動きを支えてきた道路・鉄道・空港
・市街地発展の礎となった開拓当時の市街地区画形態
・町民の心の拠り所となっていた中標津神社
・先人の足跡であるチャン跡地
など

交流 世界との交流・広域との交流・地区内での交流のための拠点づくりと多様な移動ネットワークを構築します。
・“世界との交流”を促進する空港を中心とした空港活用型活性化拠点
・“広域と交流”を促進する市街地中心を活性化
・“地域のコミュニティ交流”を活性化する地区交流拠点の形成やパブリックオープンスペースの確保
・広域間の移動ネットワーク(空港、広域幹線道路、広域公共交通)
・都市内の移動ネットワーク(幹線、歩行者・自転車道路、公共交通)
・地区内の移動ネットワーク(補助幹線、歩行者・自転車道路)

共生 中標津らしい風景・美しい景観・共生型利用促進地区・自然共生促進地区・小河川を大切にします。
・“中標津らしい風景”である武佐岳への眺望を確保する空間
・“美しい景観”を創り出す市街地の中心部と空港アクセス道路
・“自然との共生を促進する地区”を創り出す東中地区のエゾリンドウ群生地周辺の低未利用地
・“小河川”としてのタワラマップ川、チナナ川、ボンタワラマップ川、ますみ川

自律 コンパクトな市街地づくりに努めます。
・“コンパクトな市街地”を担保する南北の保安林や急傾斜な丘陵地を保全
・東西の市街地抑制

夢実現化構想

総合計画連動構想

安心・安全のまちづくり 市街地中心部の総合的な生活支援・防災拠点化と町立病院や都市公園等を中心とした専門拠点化を図り、ユニバーサルな歩行ネットワークを構築します。

交流と活力あるまちづくり 市街地中心部の総合拠点化と夢の森公園や空港周辺等を核とした専門拠点化を図り、多様な移動ネットワークを構築します。

自律と共生のまちづくり 市街地のコンパクト化と同時に、市街地中心部の緑園都心化を図り、多様な共生ネットワークを構築します。

冬の快適なまちづくり 市街地中心部の総合的な冬(雪・寒さ)対策を図り、多様な利雪・親雪ネットワークを構築します。

市街地中心部の活性化 緑園都心構想

公的環境のネットワーク化 パブリックオープンスペースネットワーク構想

地域別街づくり構想

地域別街づくり構想の役割 居住者が身近な地域の街づくりに自発的に関わるための構想
地域の特性を踏まえた都市づくりや街づくりを進めるための構想

西町地域 「快適な生活と様々な交流のできる人にやさしい緑の街」
自然と歴史の保全と活用
市街地のコンパクト化と緑豊かな住居系市街地の形成
人にやさしいパブリックオープンスペースの確保とネットワーク化

東中地域 「高齢者や障害者の豊かな生活と交流のある自然と共生する街」
自然の保全と活用
低未利用地の活用と緑豊かな住居系市街地の形成
人にやさしいパブリックオープンスペースの確保とネットワーク化
高齢者や障害者の豊かな活動を支える機能の充実

東部地域 「緑豊かな住まいの街」
自然の保全と活用
市街地のコンパクト化
武佐岳への眺望が素晴らしい住居系市街地の形成
人にやさしいパブリックオープンスペースの確保とネットワーク化

中心部地域 「自然と歴史に抱かれた人にやさしい賑わいの街」
魅力ある都心の形成
人にやさしい交流拠点の機能の充実とネットワーク化
高齢者・障害者等の様々な活動を支える拠点の形成
身近な自然環境の保全と活用
低未利用地の活用と利便性を生かした居住地としての再生

南部地域 「武佐岳を望む緑に包まれた快適な住まいの街」
自然および自然景観の保全と活用
市街地のコンパクト化
人にやさしいパブリックオープンスペースの確保とネットワーク化
武佐岳の眺望が素晴らしい住居系市街地の形成

西部地域 「心安らく健康の街」
自然と酪農景観の保全
市街地のコンパクト化
人にやさしいパブリックオープンスペースの確保とネットワーク化
人々の健康を支える機能の充実

テーマ別まちづくり構想

まちづくりテーマの設定 地域生活の上でその解決が緊急となっている街づくり上の課題
中標津町の総合計画における重点的な都市整備上の課題

安心・安全のまちづくり 市街地中心部の総合的な生活支援・防災拠点化
町立病院や都市公園等を中心とした専門拠点化
ユニバーサルな歩行ネットワーク

交流と活力あるまちづくり 市街地中心部の総合活性化拠点
夢の森公園や空港周辺等の専門活性化拠点
多様な移動ネットワーク

自律と共生のまちづくり 環境負荷の抑制に向けた市街地のコンパクト化
地域の歴史や豊かな自然環境を子どもたちに伝える市街地中心部の緑園都心化
多様な共生ネットワーク

冬の快適なまちづくり 市街地中心部の総合的な冬対策(防寒・耐雪・利雪・親雪)
冬期の快適な交通ネットワーク

都市づくり上の課題

中標津町の都市の特性とまちづくりの方向性から、今後の都市づくり上の課題としては、以下の3点が重要と考えます。

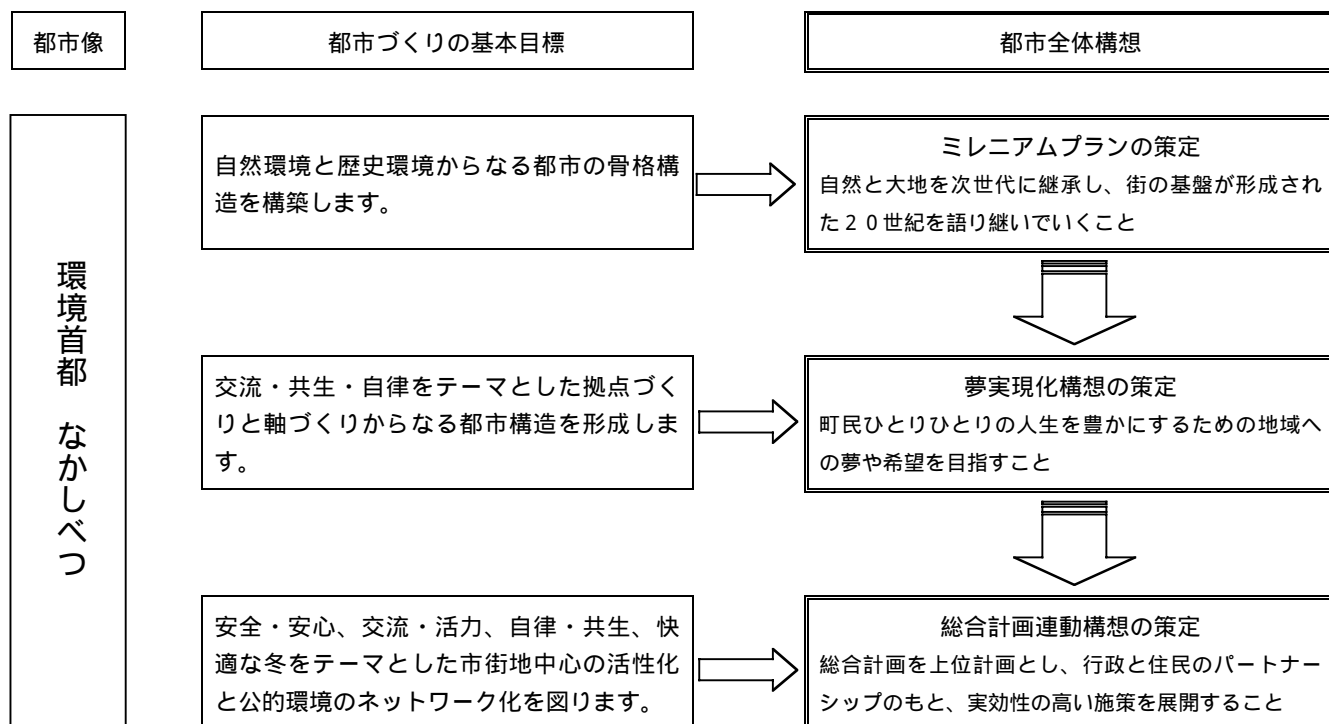
“町民に愛されている自然と大地”を次世代に継承し、“街の基盤が形成された20世紀”を語り継いでいく姿勢を失わないことが求められます。

長期的・広域的な視点での“まちづくりの哲学”に基づきながら、総合計画等と連動した“実現可能な都市づくり”を進めることが必要不可欠です。

“地域の発展とともに顕著となった都市全体にわたる重要課題”と“住民が身近に感じている地域の個別課題”を解決する取り組みが急務です。

将来都市像と都市づくりの基本目標

我々は、中標津の将来都市像を「環境首都 なかしべつ」と呼ぶこととし、その具体化に向けた都市づくりの基本目標を以下の3点とします。



ミレニアムプランの基本的考え方

中標津町の超長期的にわたる骨格的な都市づくりのため、1世紀を超える超長期を検討対象期間としながら、「自然と大地を次世代に継承し、街の基盤が形成された20世紀を語り継いでいくこと」を大切にしながら、「骨太な都市（まち）」づくりを目指します。特に、「骨太な都市（まち）」とは、「自然と共生した持続的な都市」と「歴史を積み重ねた個性ある都市」からなる都市（環境首都 なかしべつ）と認識し、「自然と歴史からなる都市の骨格構造」を構築する都市整備を進めます。

この「自然と歴史からなる都市の骨格構造」の構築に向けた構想を「ミレニアムプラン」と呼ぶこととし、その基本的考え方を以下の通りとします。

“持続的な都市”を創造する「自然との共生」の目標を“都市化以前の状態に近い良好な自然の維持”とし、それに該当する自然環境を大切にすものとして位置づけます。

“個性ある都市”を創造する「歴史の積み重ね」の目標を“開拓から近代化にいたる歴史の語り部の継承”とし、それに該当する歴史環境を大切にすものとして位置づけます。

ミレニアムプランの内容

【対象】	【基本的考え方】	【ミレニアムプランの内容】
自然	“都市化以前の状態に近い良好な自然”に該当する自然環境を大切にすものとして位置づけます。	<ul style="list-style-type: none"> ・骨格的な河川としての標津川 ・河岸段丘などの特色的な地形 ・夢の森公園や森林公園周辺、国有防霧防風保安林の緑地 ・武佐岳への眺望を確保する空間 ・“積極的な利用を図るべき土地”（利用ゾーン） ・“自然との共生に配慮すべき土地”（共生ゾーン）
歴史	“開拓から近代化にいたる歴史の語り部”に該当する歴史環境を大切にすものとして位置づけます。	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹産業の発展に貢献した国有防霧防風保安林、農業試験場、鮭鱒ふ化場 ・街の発展や人・ものの動きを支えてきた道路・鉄道・空港 ・市街地発展の礎となった開拓当時の市街地区画形態 ・町民の心の拠り所となっていた中標津神社 ・先人の足跡であるチャシ跡地

など

など

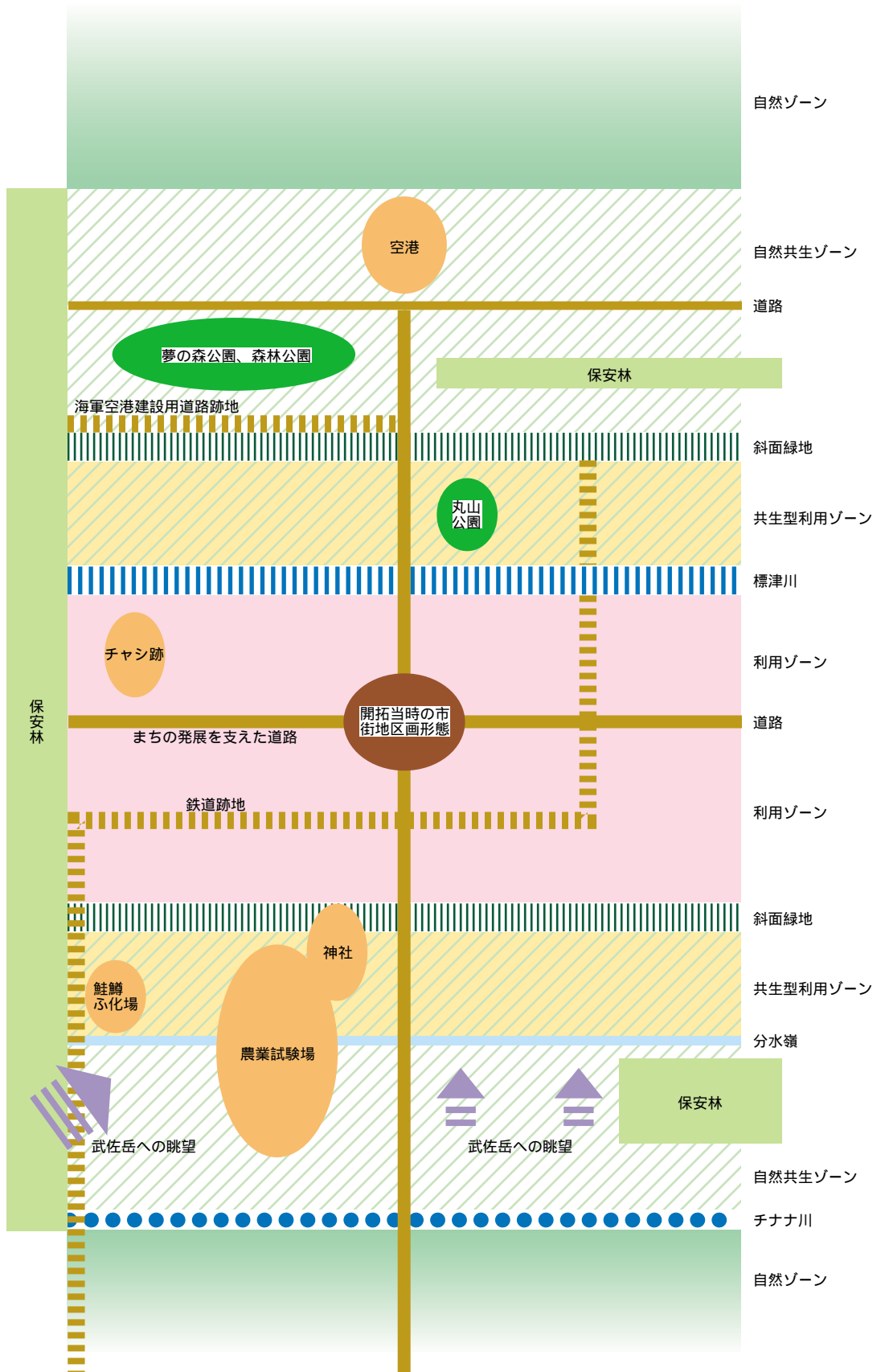


図 ミレニアムプランの概念

夢実現化構想の基本的考え方

中標津町の長期的にわたる構造的な都市づくりのため、半世紀程度の長期を検討対象期間としながら、「町民ひとりひとりの人生を豊かにするための地域への夢や希望を目指すこと」を大切にしながら、「地域の夢が実現する都市（まち）」づくりを目指します。特に、「地域の夢が実現する都市（まち）」とは、「交流のある都市（まち）」と「共生する都市（まち）」、「自律した都市（まち）」からなる都市（環境首都 なかしべつ）と認識し、「交流・共生・自律をテーマとした拠点と軸」を形成する整備を進めます。

この「交流・共生・自律をテーマとした拠点と軸からなる都市構造」の形成に向けた構想を「夢実現化構想」と呼ぶこととし、その基本的考え方を以下の通りとします。

様々な魅力にあふれ、深い思いやりに包まれた「交流のある都市（まち）」を実現するため、世界との交流・広域との交流・地区内での交流のための拠点づくりと多様な移動ネットワークを構築します。

地球に優しく、身近なうるおいにあふれる「共生する都市（まち）」を実現するため、中標津らしい風景・美しい景観・共生型利用促進地区・自然共生促進地区・小河川を大切にします。

無駄が少なく、ゆとりある「自律した都市（まち）」を実現するため、コンパクトな市街地づくりに努めます。

夢実現化構想の内容

【対象】	【基本的考え方】	【夢実現化構想の内容】
交流	世界との交流・広域との交流・地区内での交流のための拠点づくりと多様な移動ネットワークを構築します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ “世界との交流” を促進する空港を中心とした空港活用型活性化拠点 ・ “広域と交流” を促進する市街地中心を活性化 ・ “地域のコミュニティ交流” を活発化する地区交流拠点の形成やパブリックオープンスペースの確保 ・ 広域間の移動ネットワーク（空港、広域幹線道路、広域公共交通） ・ 都市内の移動ネットワーク（幹線、歩行者・自転車道路、公共交通） ・ 地区内の移動ネットワーク（補助幹線、歩行者・自転車道路）
共生	中標津らしい風景・美しい景観・共生型利用促進地区・自然共生促進地区・小河川を大切にします。	<ul style="list-style-type: none"> ・ “中標津らしい風景” である武佐岳への眺望を確保する空間 ・ “美しい景観” を創り出す市街地の中心部と空港アクセス道路 ・ “自然との共生を促進する地区” を創り出す東中地区のエゾリンドウ群生地周辺の低未利用地 ・ “小河川” としてのタワラマップ川、チナナ川、ボンタワラマップ川、ますみ川
自律	コンパクトな市街地づくりに努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ “コンパクトな市街地” を担保する南北の保安林や急傾斜な丘陵地を保全 ・ 東西の市街化抑制

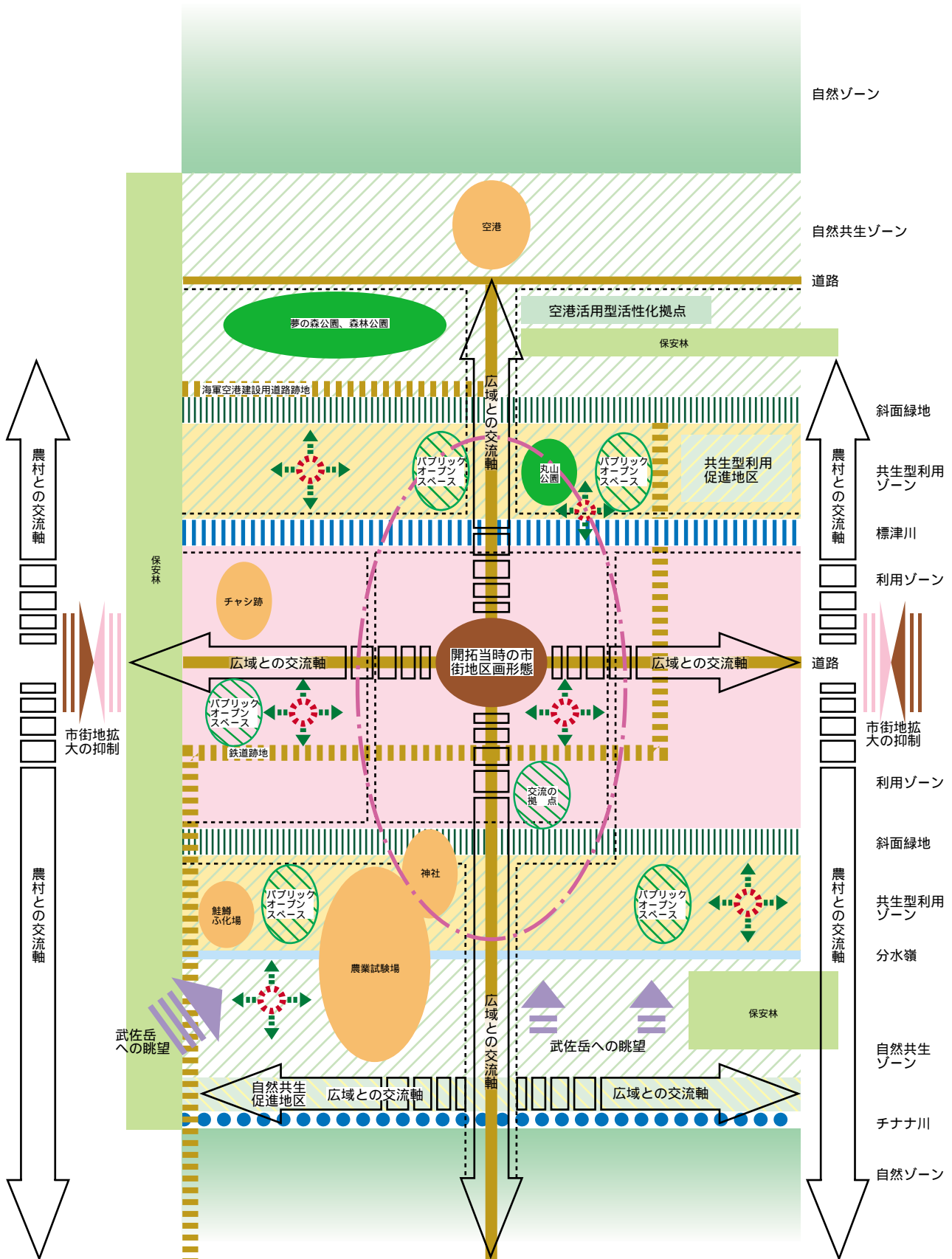


図 夢実現化構想の概念

総合計画連動構想の基本的考え方

中標津町の中期的で具体的な都市づくりのため、都市マスタープランの総合的な見直し期間である20年程度を検討対象期間としながら、「総合計画を上位計画とし、行政と住民のパートナーシップのもと、実効性の施策を展開すること」を目標とした“生活実感に基づいたリアリティのある都市（まち）”づくりを推進します。特に、「生活実感に基づいたリアリティのある都市（まち）」とは、“安全・安心の都市（まち）”、“交流と活力の都市（まち）”、“自律と共生の都市（まち）”、“冬の快適な都市（まち）”からなる都市（環境首都 なかしべつ）と認識し、“安全・安心、交流・活力、自律・共生、快適な冬をテーマとした市街地中心部の活性化と公的環境のネットワーク化”を図る整備を進めます。

この「安全・安心、交流・活力、自律・共生、快適な冬をテーマとした市街地中心部の活性化と公環境のネットワーク化」に向けた構想を“総合計画連動構想”と呼ぶこととし、その基本的考え方を以下の通りとします。

誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりのため、市街地中心部の総合的な生活支援・防災拠点化と町立病院や都市公園等を中心とした専門拠点化を図り、ユニバーサルな歩行ネットワークを構築します。

レクリエーションと産業の両面からの交流と活力のあるまちづくりのため、市街地中心部の総合拠点化と夢の森公園や空港周辺等を核とした専門拠点化を図り、多様な移動ネットワークを構築します。

持続的な発展に向けて自律し、自然や歴史と共生するまちづくりのため、市街地のコンパクト化と同時に、市街地中心部の緑園都心化を図り、多様な共生ネットワークを構築します。

冬の快適なまちづくりのため、市街地中心部の総合的な冬（雪・寒さ）対策を図り、多様な利雪・親雪ネットワークを構築します。

総合計画連動構想の内容

【対象】

安心・安全のまちづくり

交流と活力あるまちづくり

自律と共生のまちづくり

冬の快適なまちづくり

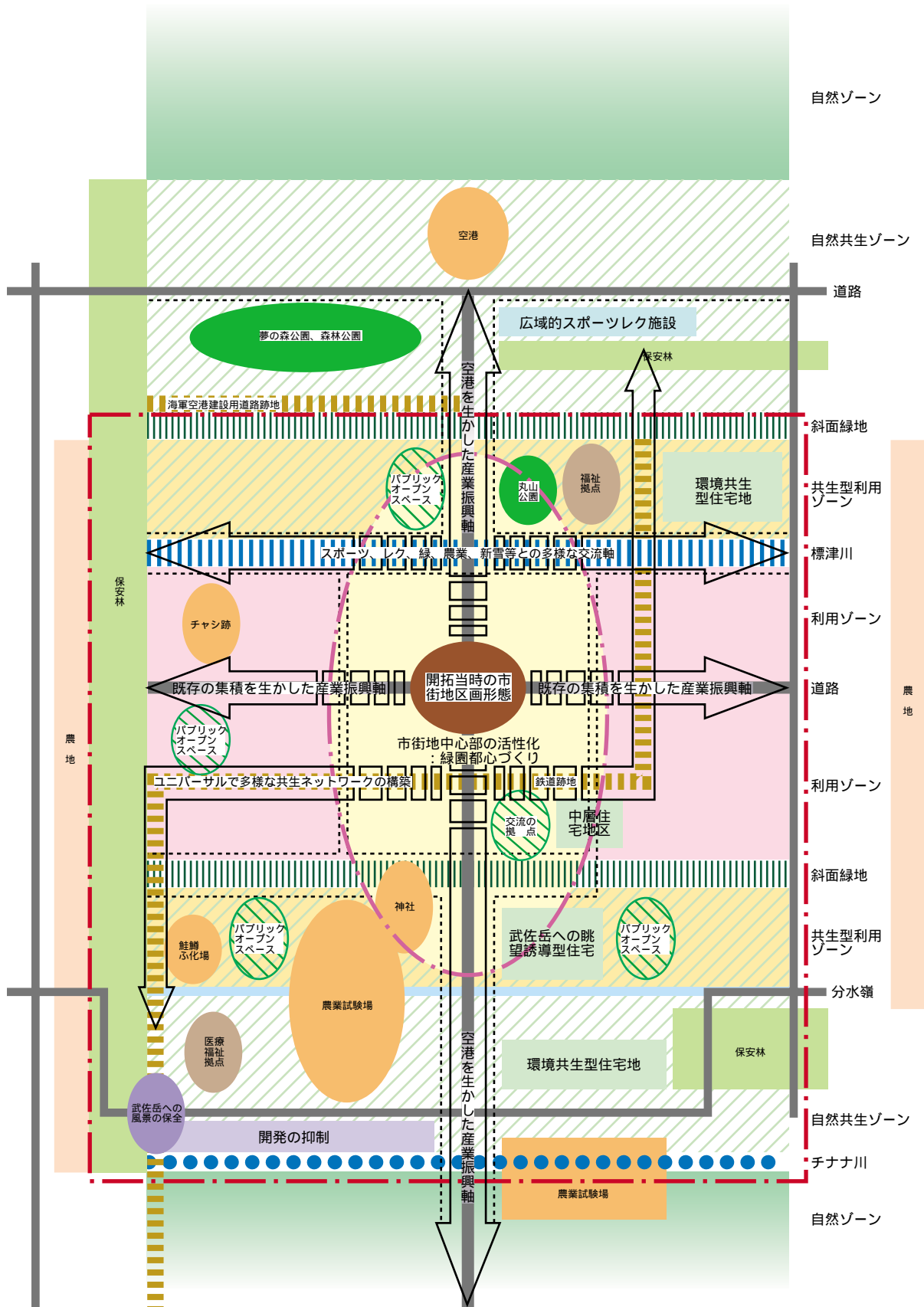
【基本的考え方】

市街地中心部の総合的な生活支援・防災拠点化と町立病院や都市公園等を中心とした専門拠点化を図り、ユニバーサルな歩行ネットワークを構築します。

市街地中心部の総合拠点化と夢の森公園や空港周辺等を核とした専門拠点化を図り、多様な移動ネットワークを構築します。

市街地のコンパクト化と同時に、市街地中心部の緑園都心化を図り、多様な共生ネットワークを構築します。

市街地中心部の総合的な冬（雪・寒さ）対策を図り、多様な利雪・親雪ネットワークを構築します。




 : 市街地の範囲

図 総合計画連動構想の概念

市街地中心部の活性化の目標

「環境首都 なかしべつ」の市街地中心部の活性化の目標は、「都市部に残る貴重で身近な自然との共生と酪農を基盤とした歴史の積み重ねにより醸成される環境を骨格としながら、生活都心、生業都心、交流都心としての機能が充実した“緑園都心”の創造」とします。

市街地中心部の活性化の基本方針

都市部に残る貴重で身近な自然との共生と酪農を基盤とした歴史の積み重ねにより醸成される環境（緑園都心）を骨格とします。

便利で快適なまちなかの生活の場（生活都心）づくりを進めます。

町民生活と密接に結びついたまちなかの仕事の間（生業都心）づくりを進めます。

町民と来訪客の交流の間（交流都心）づくりを進めます。

公的環境のネットワーク化の目標

「環境首都 なかしべつ」の公的環境のネットワーク化の目標は、「都市部に残る貴重で身近な自然環境（ネイチャースペース）と酪農を基盤とした歴史環境（ヒストリカルスペース）を骨格としながら、道路、公園・緑地、河川、公共施設及び大規模民間施設等の生活環境施設用地（パブリックスペース）を、自然と共生する連続した歩行者用道路でネットワークさせた“パブリックオープンスペースネットワーク”の創造」とします。

公的環境のネットワーク化の基本方針

都市部に残る貴重で身近な自然環境（ネイチャースペース）と酪農を基盤とした歴史環境（ヒストリカルスペース）をネットワークの骨格とします。

道路、公園・緑地、河川、公共施設及び大規模民間施設等の生活環境施設用地（パブリックスペース）をネットワークの対象とします。








自然と共生する連続した歩行者用道路でネットワークさせます。

中標津町都市計画 マスタープラン




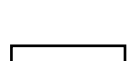
ミレニアムプラン
～自然と歴史からなる都市の骨格構造～

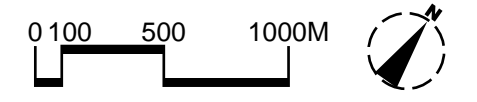
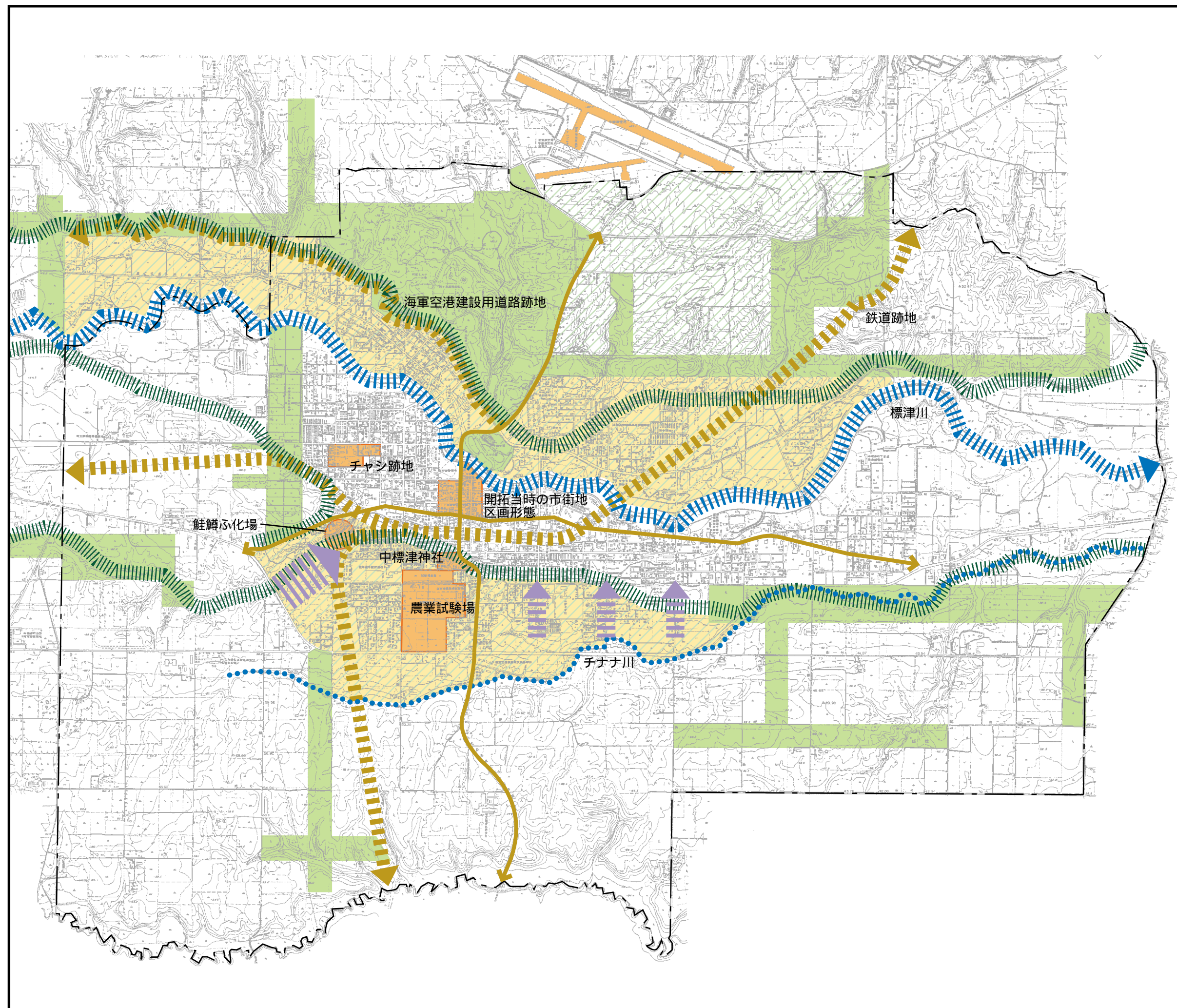
凡例

自然との共生

-  保安林・大規模緑地等
-  自然共生ゾーン
-  共生型利用ゾーン
-  標津川
-  小河川
-  河岸段丘
-  武佐岳の眺望

歴史の積み重ね

-  面的記憶
-  線的記憶
-  線的記憶
-  都市計画区域界








中標津町都市計画 マスタープラン




夢実現化構想
~交流・共生・自律をテーマとした
拠点と軸からなる都市構造~

凡例



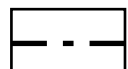
交流都市系

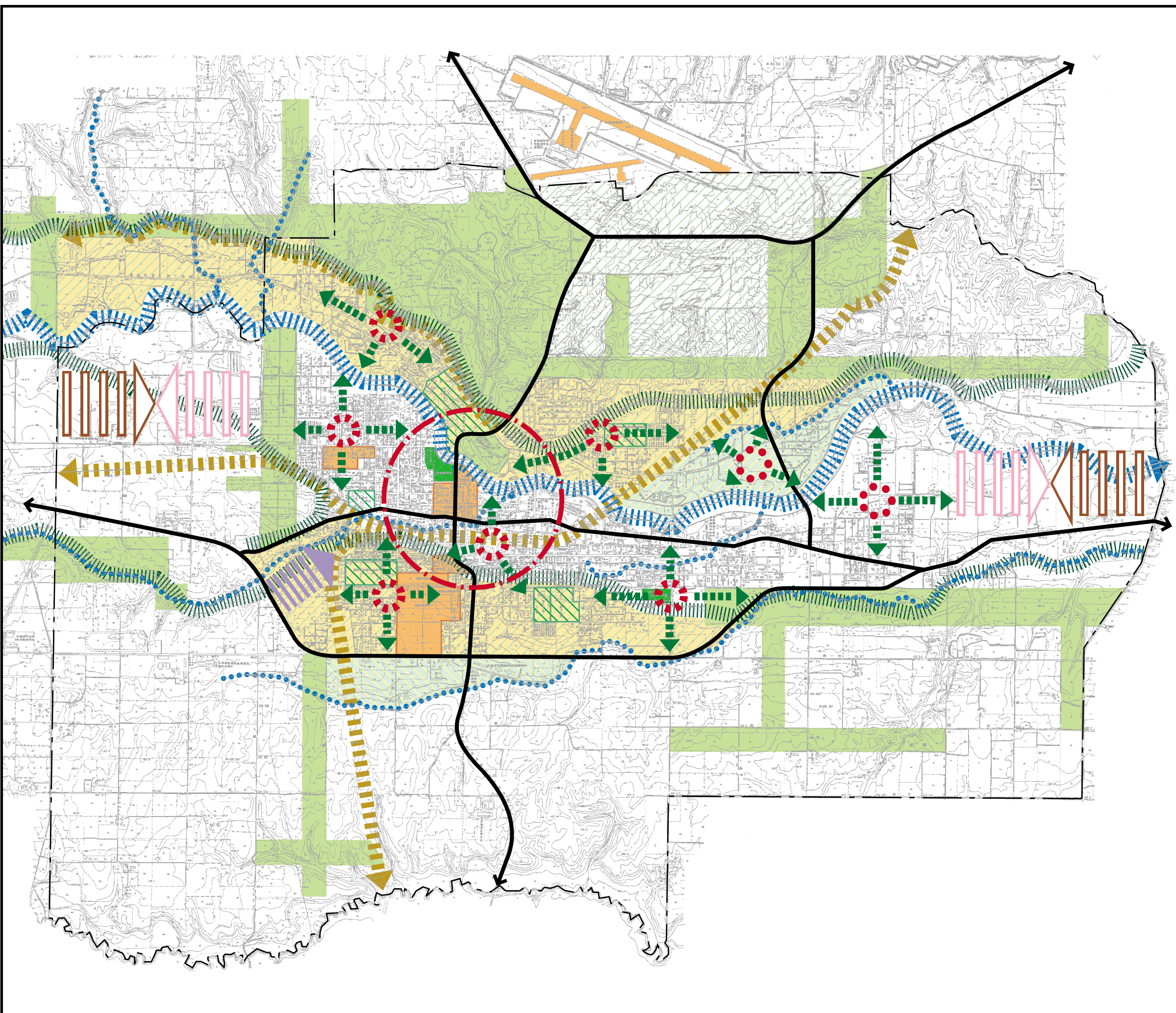
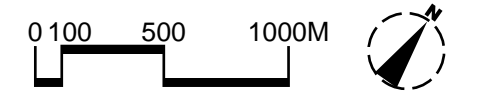
-  空港活用型活性化拠点
-  中心市街地
-  パブリック
オープンスペース
-  地区交流拠点
-  地区内ネットワーク

共生都市系

-  共生市街地ゾーン
-  共生型利用促進地区
-  自然共生促進地区

自律都市系

-  市街地開発の力
-  農業利用の力
-  都市計画区域界



地域別街づくり構想の役割

居住者が身近な地域の街づくりに自発的に関わるための構想

中標津町の都市づくりを進めるにあたっては、住民が都市づくりを身近な問題として考え、将来像を共有化し、自発的に関わることが重要です。

地域別街づくり構想は、都市全体構想と比べ、より身近な地域の将来像であり、居住者が自発的に関わる指針となります。

地域の特性を踏まえた都市づくりや街づくりを進めるための構想

各地域には、それぞれの歴史や自然、活動からなる特性があり、都市づくりや街づくりにあたっては、各地域の持つ特性を踏まえて取り組む必要があります。

地域別街づくり構想は、地域の特性を踏まえた都市づくりや街づくりの上での指針となります。

地域区分の考え方

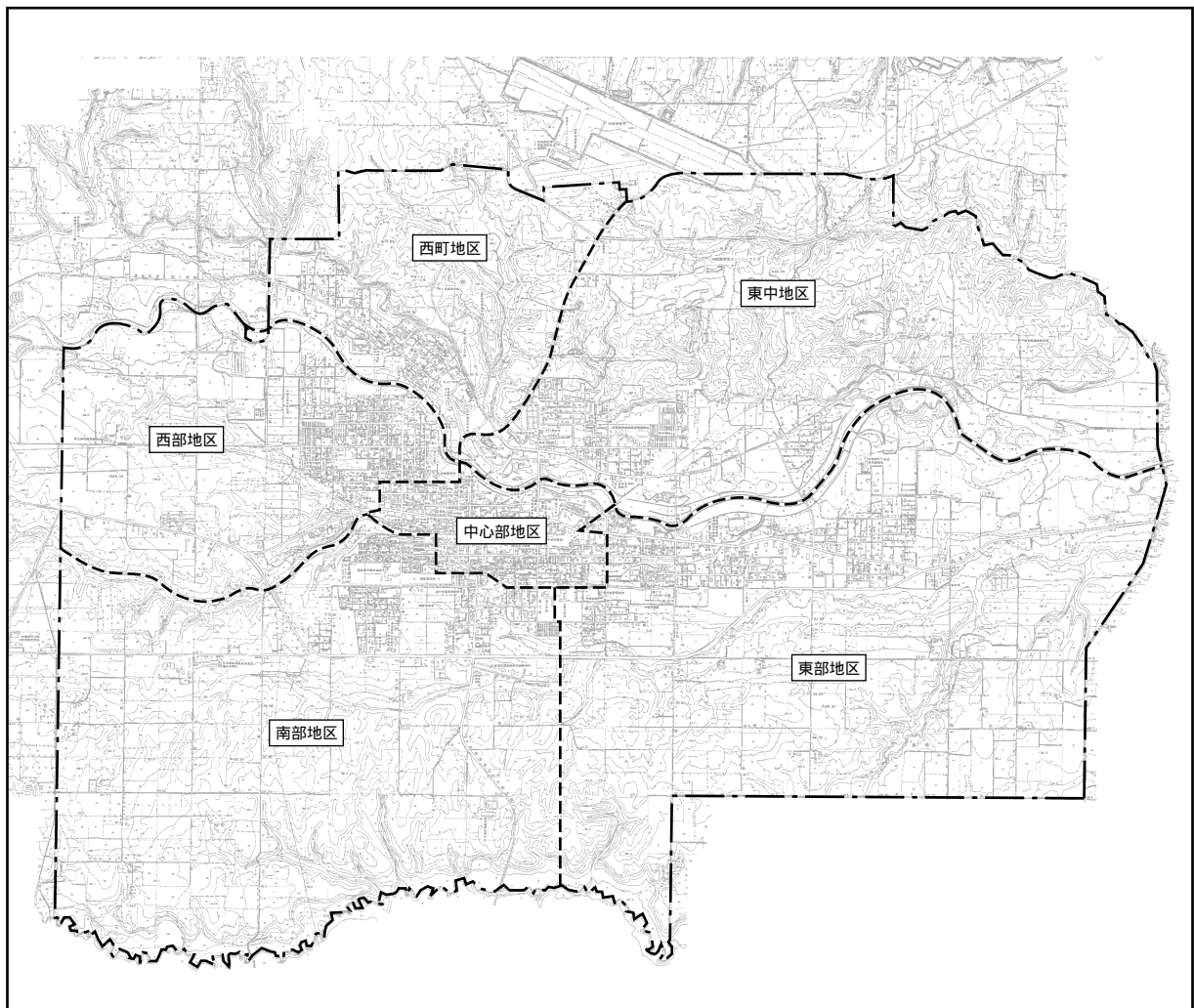


図 地域区分

街づくりの考え方と基本方針

本地域の街づくりの主要課題は、安心感や安全性の確保を柱とした生活の場・広域から地域内までの交流の場としての充実となっています。

一方、都市全体構想においては“共生市街地ゾーン”として位置づけられ、歴史からなる都市の骨格構造の構要素やパブリックオープンスペースがあります。

よって、本地域の街づくりの考え方を「快適な生活と様々な交流のできる人にやさしい緑の街」とします。

自然と歴史の保全と活用

市街地のコンパクト化と緑豊かな住居系市街地の形成

人にやさしいパブリックオープンスペースの確保とネットワーク化

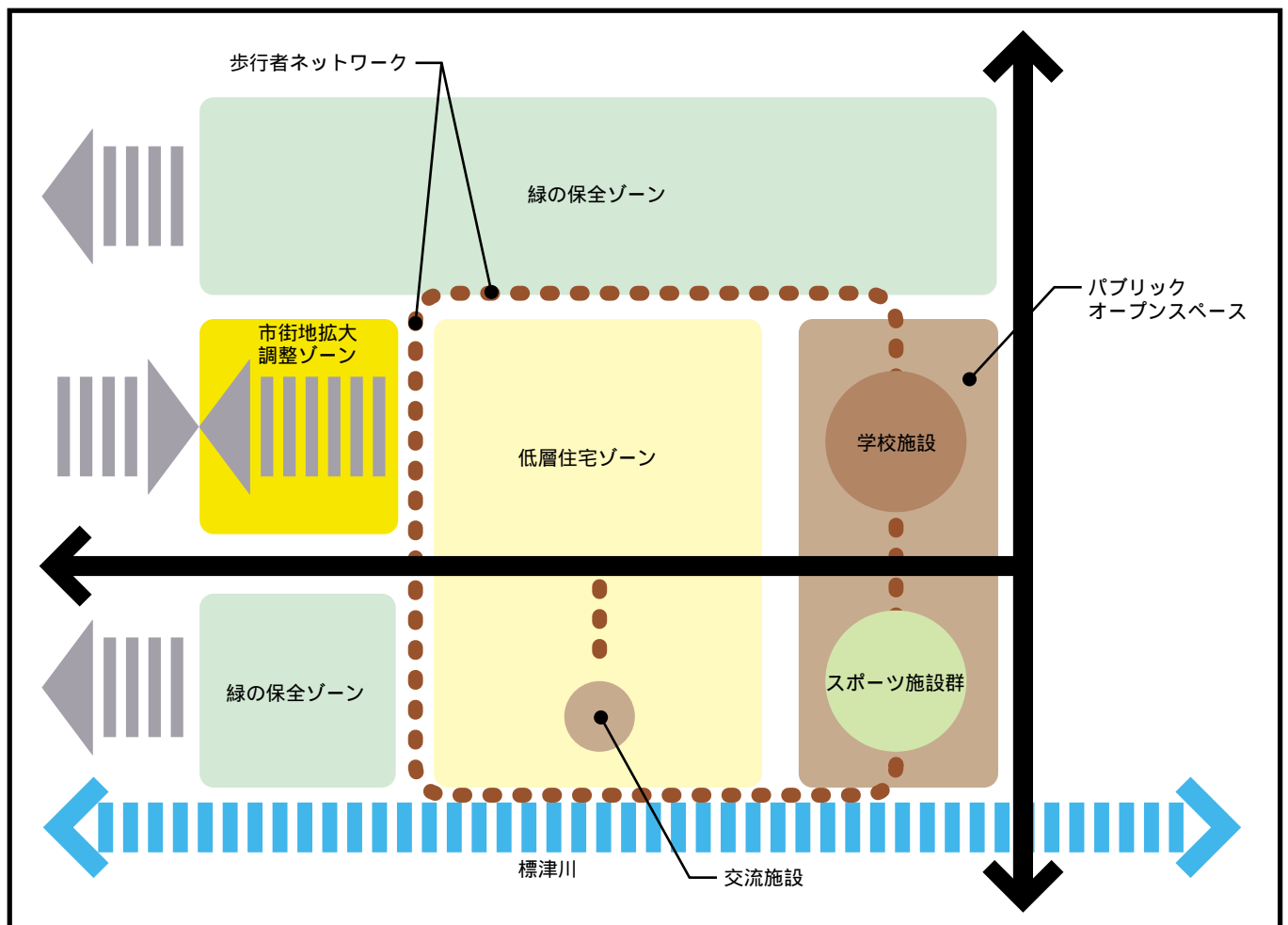


図 街づくり方策

街づくりの考え方と基本方針

本地域の街づくりの主要課題は、自然環境の保全を柱とした、人にやさしい生活と交流の場の充実となっています。

一方、都市全体構想においては“共生市街地ゾーン”として位置づけられ、歴史からなる都市の骨格構造の構要素や自然共生モデル地区、パブリックオープンスペースがあります。

よって、本地域の街づくりの考え方を「高齢者や障害者の豊かな生活と交流のある自然と共生する街」とします。

自然の保全と活用

低未利用地の活用と緑豊かな住居系市街地の形成

人にやさしいパブリックオープンスペースの確保とネットワーク化

高齢者や障害者の豊かな活動を支える機能の充実

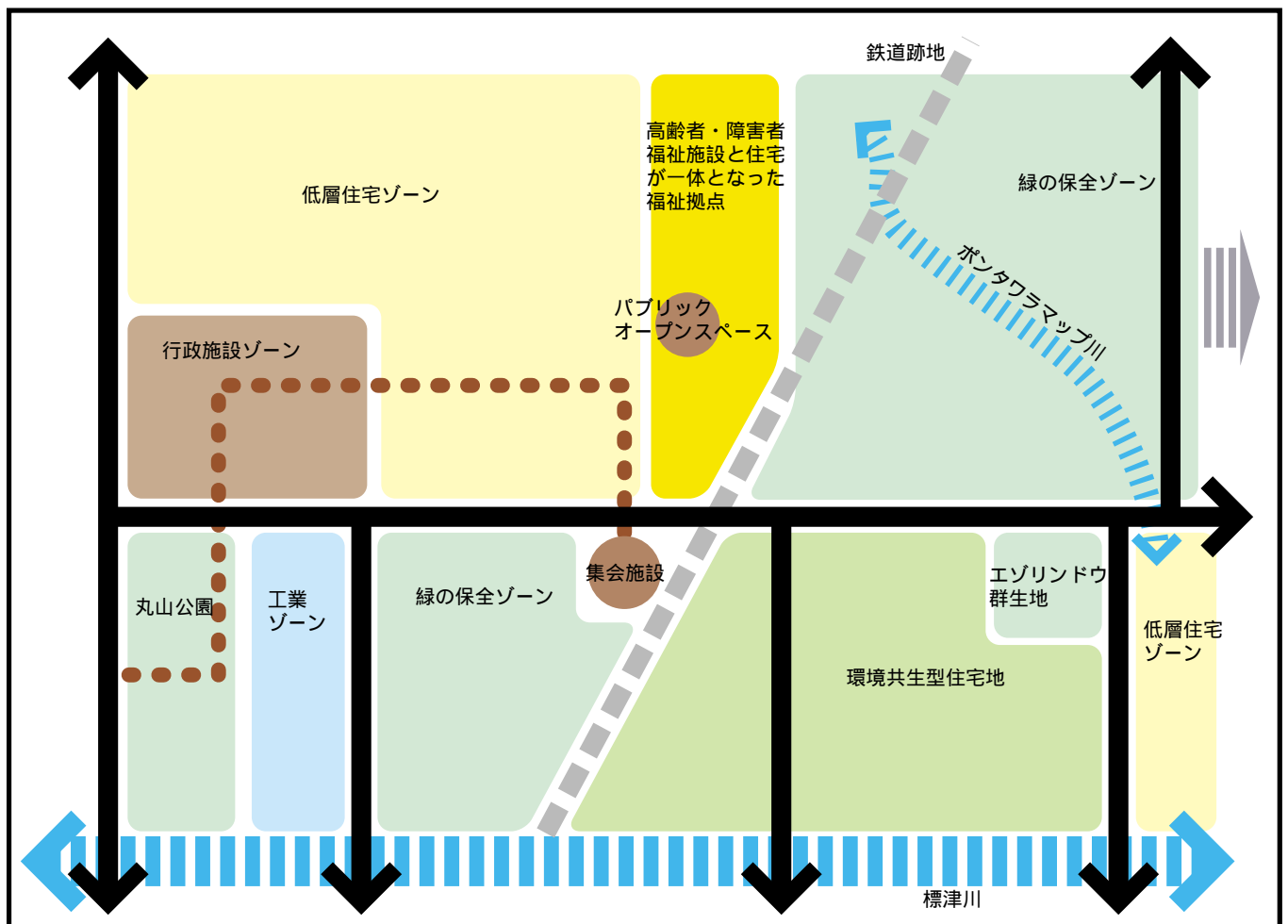


図 街づくり方針

街づくりの考え方と基本方針

本地域の街づくりの主要課題は、住環境の向上を柱とした自然環境の保全となっています。

一方、都市全体構想においては“利用市街地ゾーン”と“共生市街地ゾーン”として位置づけられ、自然からなる都市の骨格構造の構成要素やパブリックオープンスペースがあります。

よって、本地域の街づくりの考え方を「緑豊かな住まいの街」とします。

自然の保全と活用

市街化のコンパクト化

武佐岳への眺望が素晴らしい住居系市街地の形成

人にやさしいパブリックオープンスペースの確保とネットワーク化

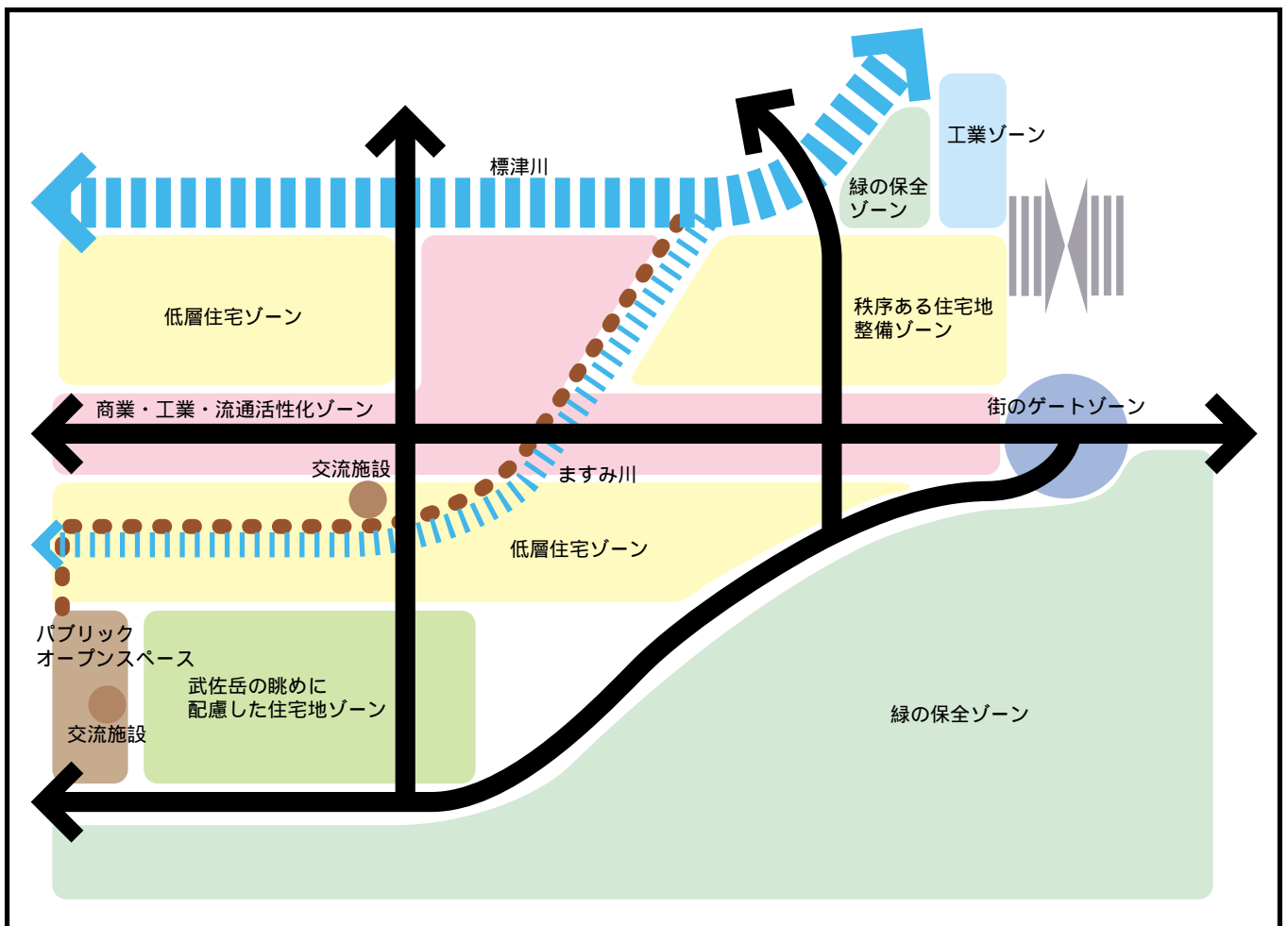


図 街づくり方策

街づくりの考え方と基本方針

本地域の街づくりの主要課題は、商業地・居住地としての魅力向上を柱とした、自然環境の保全、人にやさしい生活と交流の場の充実となっています。

一方、都市全体構想においては“利用市街地ゾーン”として位置づけられ、自然や歴史からなる都市の骨格構造の構成要素があります。

よって、本地域の街づくりの考え方を「自然と歴史に抱かれた人にやさしい賑わいの街」とします。

魅力ある都心の形成

人にやさしい交流拠点の機能の充実とネットワーク化

高齢者・障害者等の様々な活動を支える拠点の形成

身近な自然環境の保全と活用

低未利用地の活用と利便性を生かした居住地としての再生

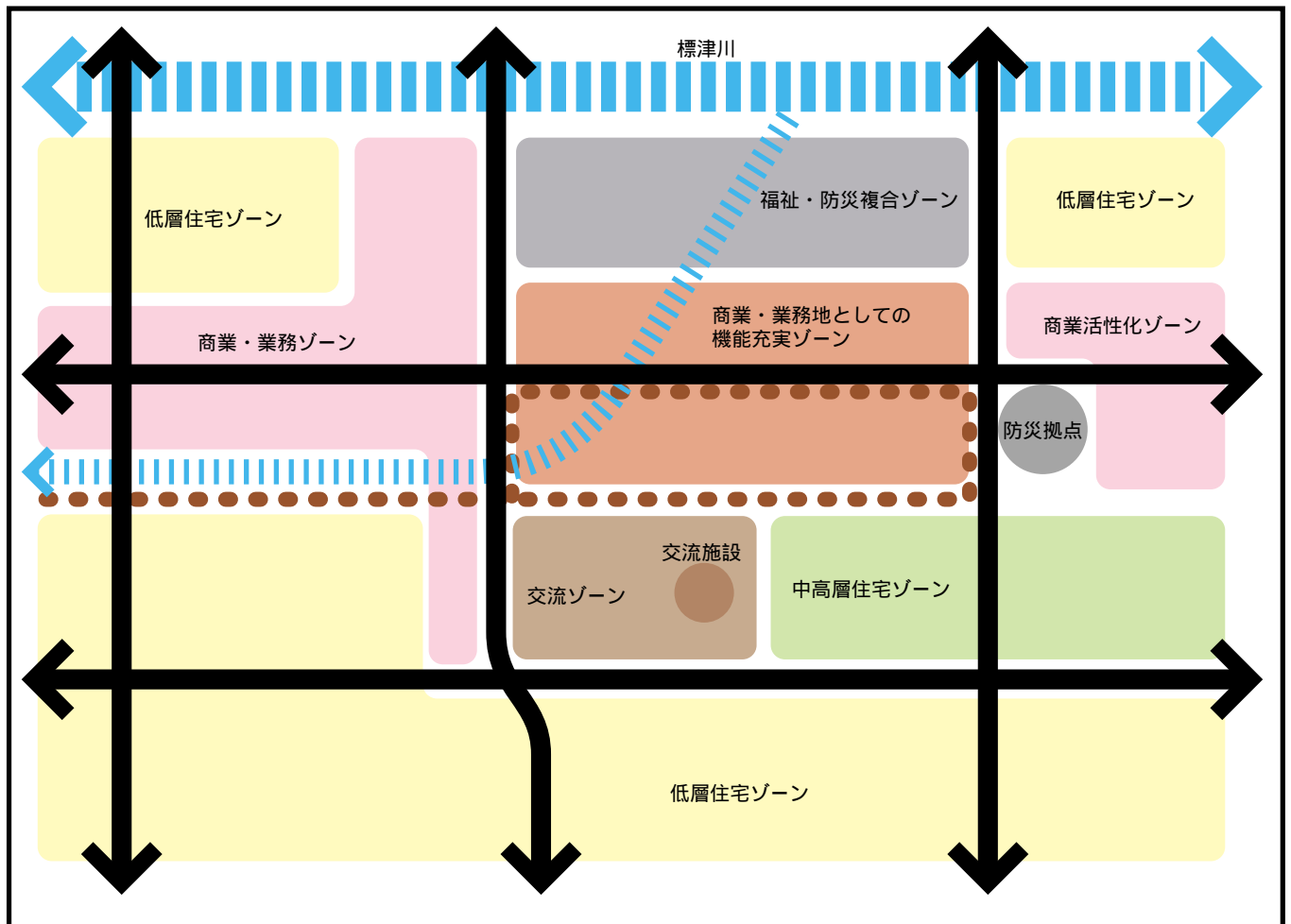


図 街づくり方針

街づくりの考え方と基本方針

本地域の街づくりの主要課題は、住環境の向上を柱とした武佐岳への景観保全、自然環境の保全、歩行の快適性の向上となっています。

一方、都市全体構想においては“共生市街地ゾーン”として位置づけられ、自然や歴史からなる都市の骨格構造の構成要素やパブリックオープンスペースがあります。

よって、本地域の街づくりの考え方を「武佐岳を望む緑に包まれた快適な住まいの街」とします。

自然および自然景観の保全と活用

市街化のコンパクト化

人にやさしいパブリックオープンスペースの確保とネットワーク化

武佐岳の眺望が素晴らしい住宅市街地の形成

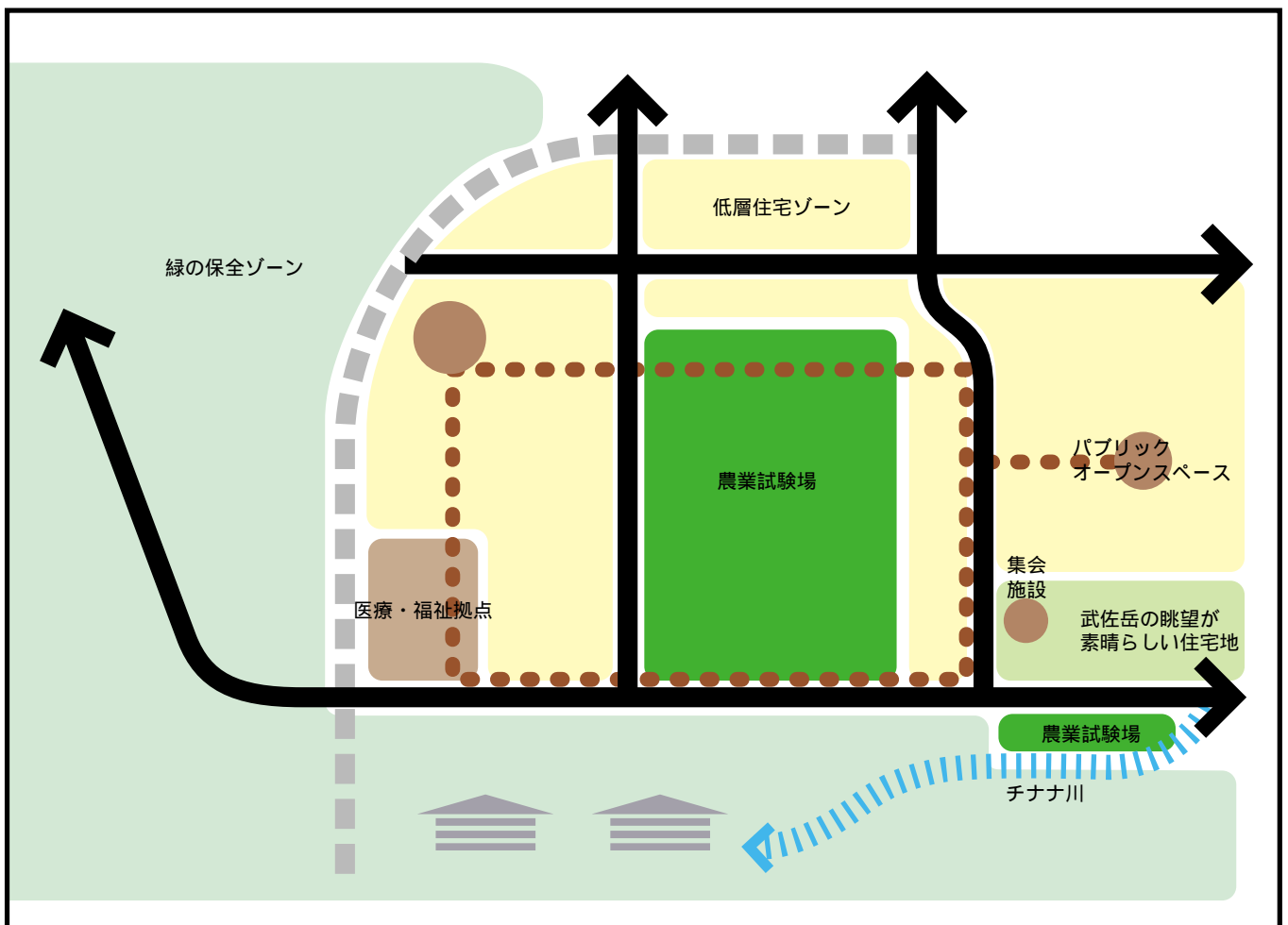


図 街づくり方針

街づくりの考え方と基本方針

本地域の街づくりの主要課題は、スポーツを通じた交流環境の充実、自然環境の保全、基盤整備の推進、安心できる居住環境の確保となっています。

一方、都市全体構想においては“利用ゾーン”として位置づけられ、自然や歴史からなる都市の骨格構造、パブリックオープンスペースのための構成要素があります。

よって、本地域の街づくりの考え方を「心安らぐ健康の街」とします。

自然と酪農景観の保全

市街化のコンパクト化

人にやさしいパブリックオープンスペースの確保とネットワーク化

人々の健康を支える機能の充実

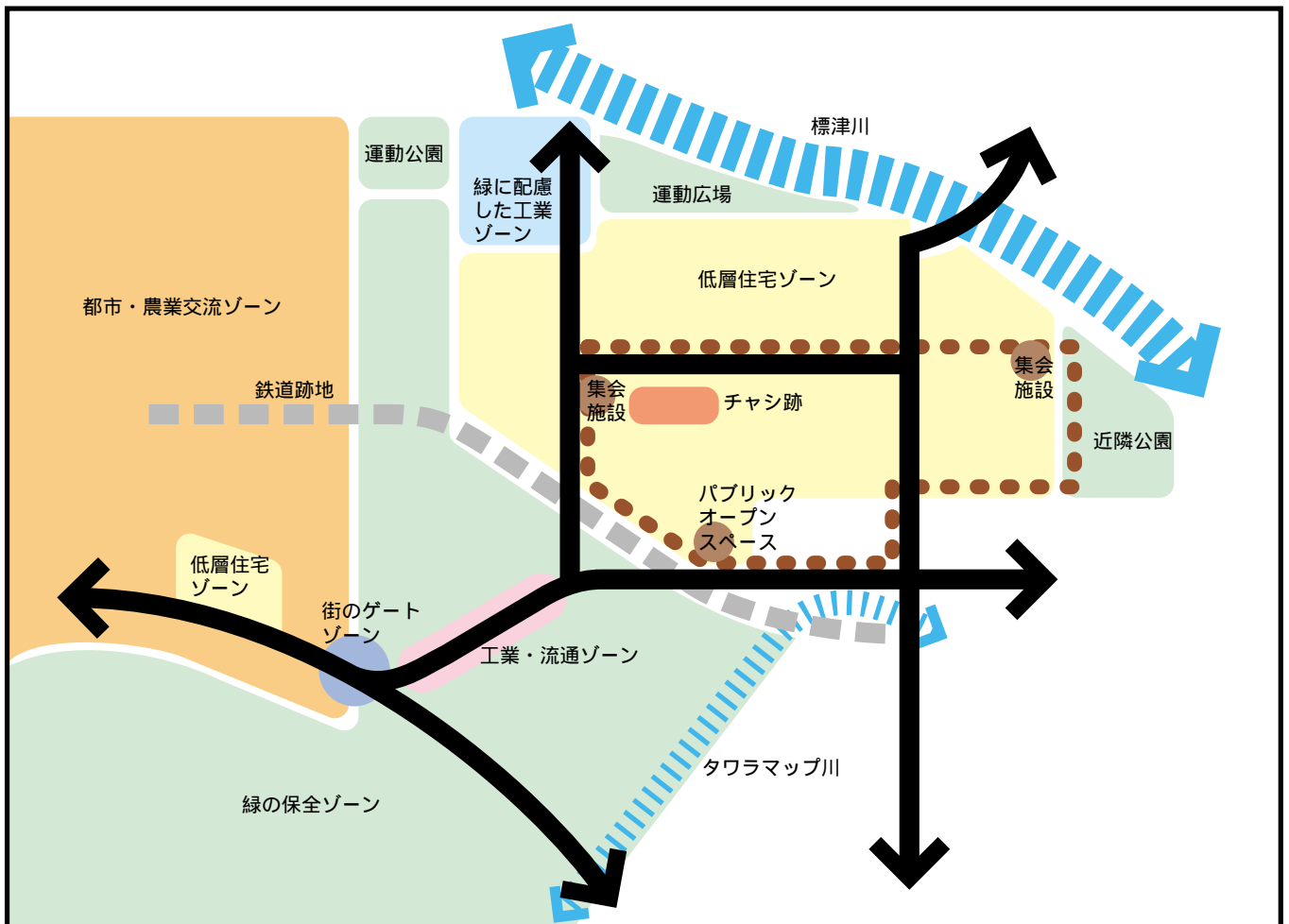


図 街づくり方針

まちづくりテーマの設定

まちづくりテーマは、 地域生活の上でその解決が緊急となっている街づくり上の課題（安全性や安心感の確保、豊かな自然との共生、冬の快適な生活の確保など）、 中標津町の総合計画における重点的な都市整備上の課題（観光客や地域内の交流の活発化、産業の振興、効率的な都市経営など）から設定します。

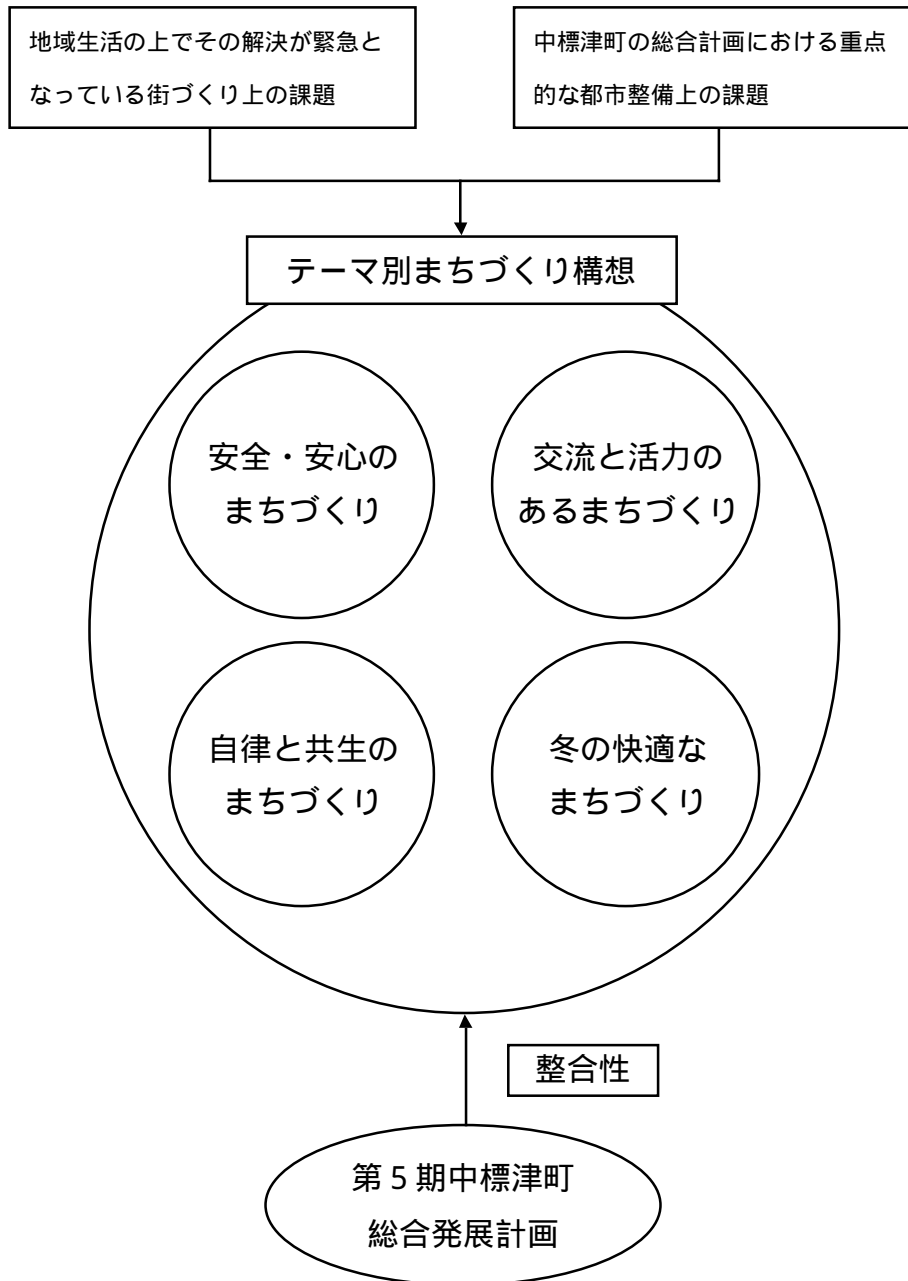


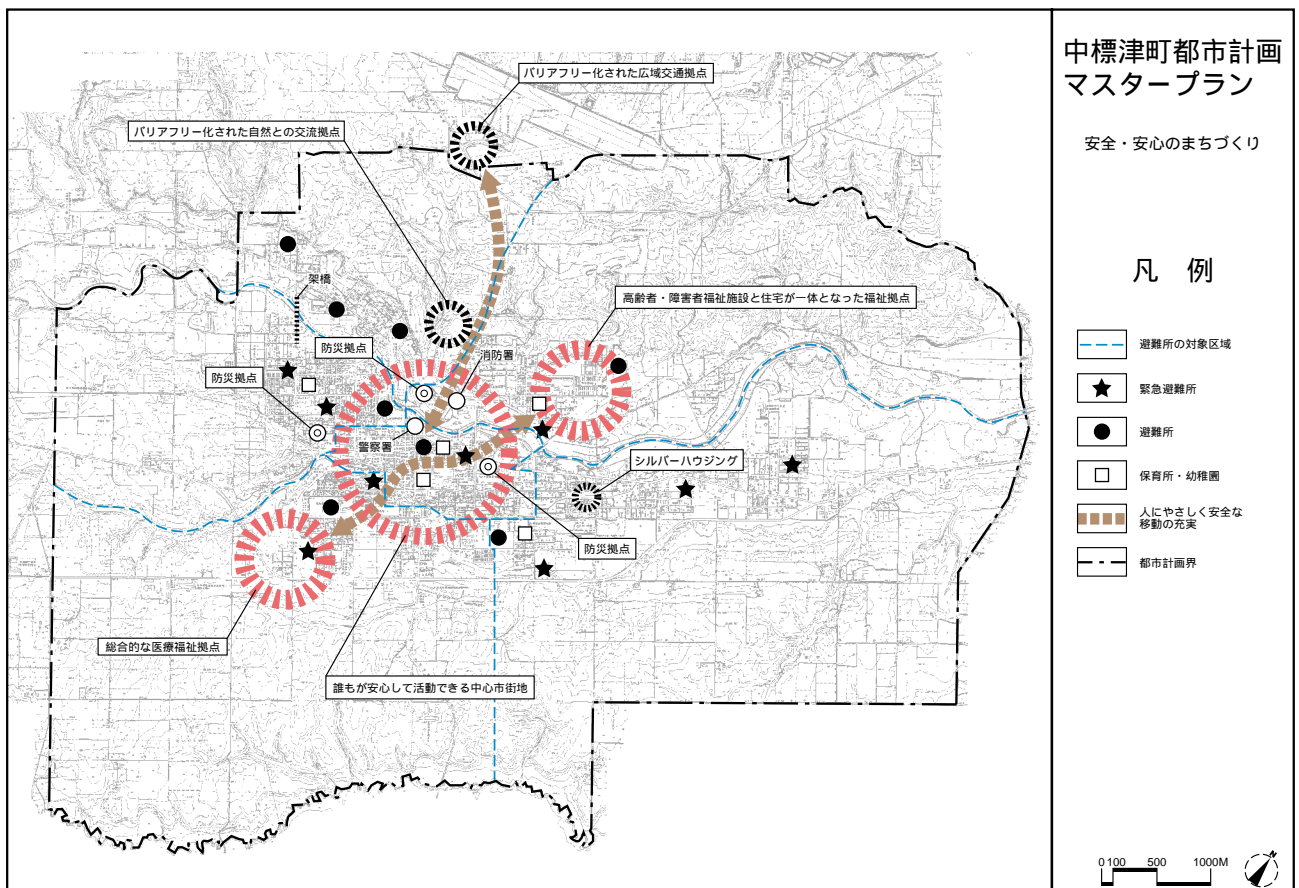
図 テーマ設定の基本的考え方

安全・安心のまちづくりが目指すもの

誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりのため、高齢者や身障者のみならずすべての住民が、安心して医療や福祉に関するサービスを楽しむことができる市街地中心部の総合的な生活支援・防災拠点化と町立病院や都市公園等を中心とした専門拠点化を図り、また、誰もが安心、安全に移動できるユニバーサルな歩行ネットワークを構築します。

安全・安心のまちづくり方針

方針	内容
誰もが安心して活動できる中心市街地の形成	・総合的な地域福祉活動拠点として福祉施設等の整備充実を図るほか、防災や日常生活拠点として誰もが利用しやすいよう、重点的にユニバーサルデザイン化を進めていきます。
医療・福祉に関する総合的なサービスが効率的に受けられる拠点の形成	・医療施設を中心とした福祉医療拠点の形成と、誰もが住みやすい住宅と交流施設が中心となった福祉・交流拠点の形成を図り、医療・福祉に関する総合的なサービスが効率的に受けられることを目指します。
人にやさしく安全な移動空間の充実	・道路のバリアフリー化の促進やバス輸送機能の充実等により、誰もが安心して移動できる空間、システムの充実を図ります。 ・また、特に、中心市街地と医療福祉拠点、福祉交流拠点を結ぶ移動空間についてユニバーサルデザイン化を進めていきます。
人にやさしく安全な施設の充実	・避難所等の防災の機能充実や高齢者等が安心して暮らせる住宅の供給、誰もが利用しやすい交流空間の機能充実を図ります。

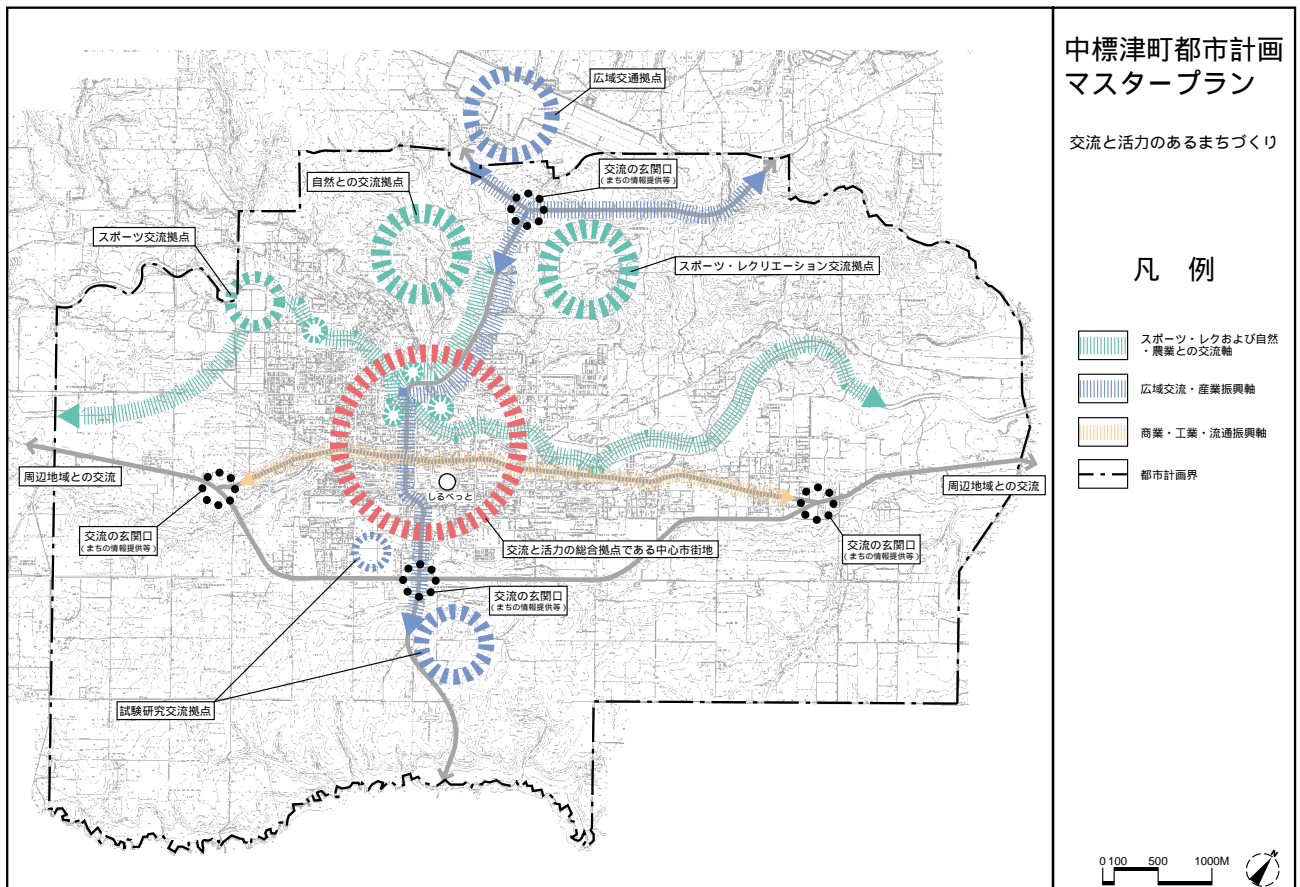


交流と活力のあるまちづくりを目指すもの

レクリエーションと産業の両面からの交流と活力のあるまちづくりのため、レクリエーション面での“高齢者や身障者のみならずすべての町民が様々な水準で参加できる多様なスポーツ・レクリエーション環境”及び“農業や自然と楽しめる環境”とともに、産業面での“空港や広域交通体系といった広域交通拠点としての優位性やインターネット等に代表される情報ネットワークを活かし、既存の商工業・流通産業の集積を基盤とした新たな産業振興を図るための受け皿”を、市街地中心部では総合活性化拠点として、また、夢の森公園や空港周辺等では専門活性化拠点を形成すると同時に、多様な移動ネットワークを構築します。

交流と活力のあるまちづくり方針

方針	内容
交流と活力の総合的拠点である中心市街地の形成	・文化、芸術を楽しむことはもとより、インターネットを活用した世界各地との交流など様々な交流を図ることができ、交流を求めて人が集まる、魅力ある中心市街地を形成します。
スポーツ・レクや自然・農業をテーマにした交流環境づくり	・運動公園の整備や、スポーツ施設の機能充実のほか標津川河川敷を生かしたジョギングやウォータースポーツ環境の整備などにより様々なスポーツが楽しめると同時に専門的な楽しみも享受できるスポーツ環境づくりを進めます。 ・緑を楽しんだりや農村景観や農業体験を楽しめる、都市と自然、農村との交流環境づくりを進めます。
空港を活用した広域交流と新しい産業の振興	・広域交通拠点である空港を生かし、試験研究や臨空型の産業の受け皿づくりを自然環境への負荷に配慮しながら進めます。
既存の商工業の集積を生かした産業の振興	・町外からの観光客等に対し、まちのイメージ向上やより深いまちへの理解を促進を目的に、より親切・丁寧な情報提供をおこないます。
お出迎えの気持を大切にされた情報提供の充実	・町外からの観光客等に対し、まちのイメージ向上やより深いまちへの理解を促進を目的に、より親切・丁寧な情報提供をおこないます。

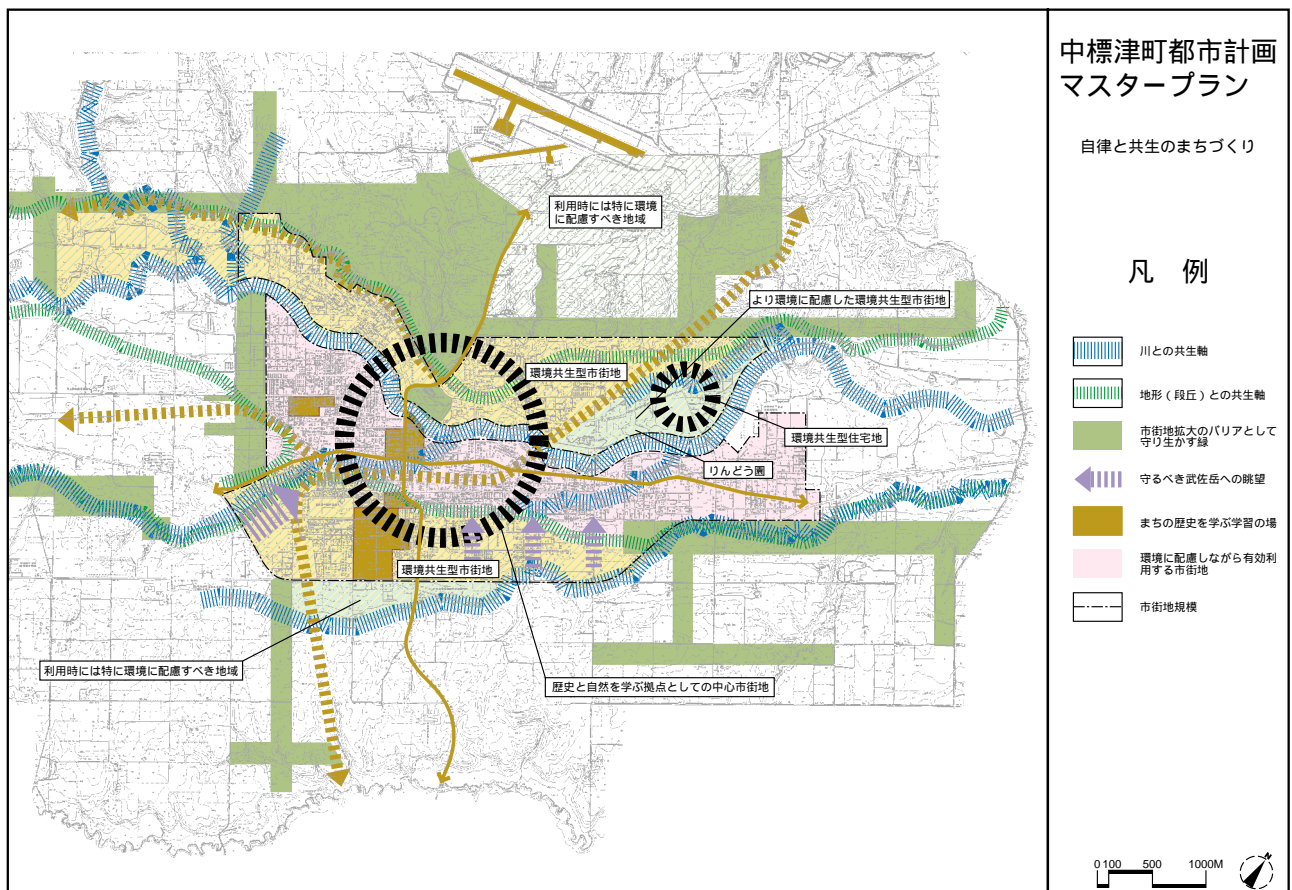


自律と共生のまちづくりが目指すもの

持続的な発展に向けて自律し、自然や歴史と共生するまちづくりのため、環境負荷の抑制に向けた市街地のコンパクト化と同時に、地域の歴史や豊かな自然環境を子どもたちに伝える市街地中心部の緑園都心化を図り、多様な共生ネットワークを構築します。

交流と活力のあるまちづくり方針

方針	内容
市街地拡大のバッファの形成	・優良農地や保安林、河川などを市街地拡大のバッファとして活用するとともにその保全を図っていきます。
地形や河川環境を大切にしながら市街地の形成	・標津川等の河川や標津川が作り出した河岸段丘を大切にするとともに、それらを活用した自然や自然が作り出した景観と共生する市街地形成を図ります。
歴史と自然を学ぶ拠点である中心市街地の形成	・鉄道跡地や標津川、タワラマップ川があるなど自然や歴史を学ぶ事ができる場があるとともに交流や学習機能が集積している中心市街地を歴史と自然を学ぶ場の拠点として整備を図ります。
地域の歴史や文化を学ぶ場の充実	・鉄道跡地などまちの歴史を学ぶことができる場の保全を図ります。

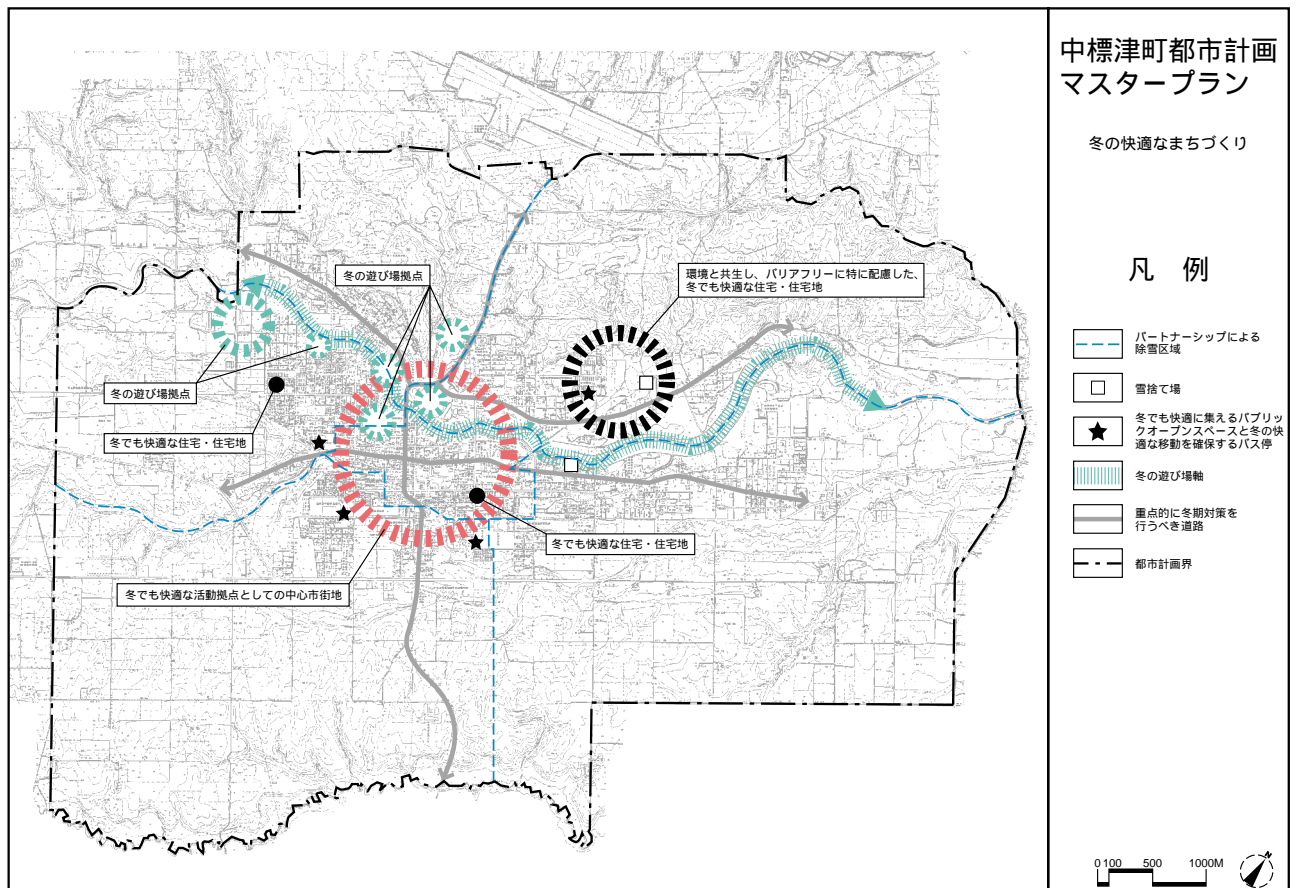


冬の快適なまちづくりが目指すもの

冬の快適なまちづくりのため、北国にふさわしい住まいや冬ならではの楽しみを体験できる市街地中心部の総合的な冬対策（防寒・耐雪・利雪・親雪）を図り、冬期の快適な交通ネットワークを構築します。

冬の快適なまちづくり方針

方針	内容
北国にふさわしい住宅・住宅地の形成	・積雪寒冷地にふさわしい快適に居住できる住宅の供給や交通システムの整備等により冬でも暮らしにくさを感じさせない住環境づくりを進めます。
冬の遊び場の創出	・冬でも楽しく遊べる公園や冬ならではのイベント開催や場の創出を図ります。
冬でも快適な活動拠点の形成	・誰もが四季を通じて快適に様々な活動ができるような中心市街地の整備を図ります。
官民一体となった総合的雪対策の充実	・パートナーシップによる除排雪等住民間の連携や住民と行政との連携による効率的・効果的な除排雪体制を構築していきます。



都市全体構想実現化方策（案）

- (1) コンパクトな都市規模の維持に向けた市街地拡大の抑制
 - 都市近郊農業活性化プロジェクト
 - 都市内保安林等保全・活用プロジェクト
 - 都市内公園・緑地整備・保全・活用プロジェクト

- (2) まちの総合拠点の形成
 - 歴史と環境のまちなか活性化プロジェクト

- (3) 地域アイデンティの醸成とともに成熟する交流拠点の形成
 - エコミュージアム・まち全体が博物館プロジェクト

- (4) 住民の余暇活動の充実と交流拠点の形成
 - スポーツ・レクコア&ネットワークプロジェクト

- (5) 新たな産業活力導入のための受け皿の形成
 - 中標津エアロ・エコ・ネット産業クラスタープロジェクト

- (6) 誰もが安全に安心して暮らせるまちの形成
 - ユニバーサルコア&ネットタウンプロジェクト

- (7) 地域コミュニティとともに育つタウン景観ネットワークの形成
 - 花と緑の回廊プロジェクト

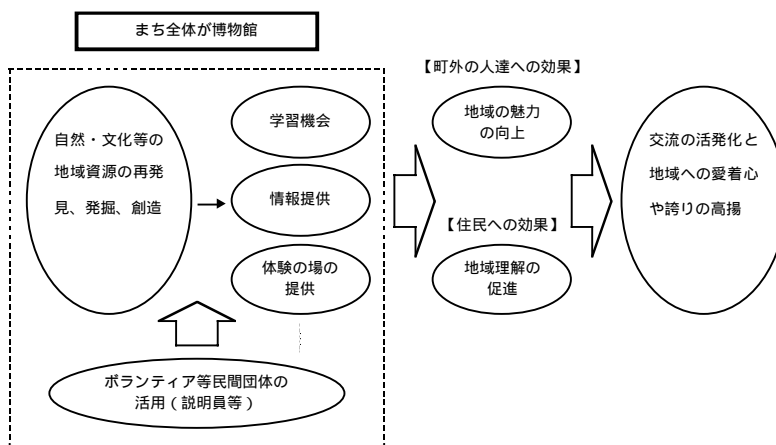
- (8) 持続可能な都市づくりを担うパートナーシップ体制の構築
 - まちづくりサポートカンパニープロジェクト

地域アイデンティの醸成とともに成熟する交流拠点の形成

～エコミュージアム・まち全体が博物館プロジェクト～

このプロジェクトは、中標津町の都市及び農村を包括するまち全体を「中標津の自然や歴史、文化の博物館」（オープンミュージアム）とみたと、地域内外の人への地域資源の情報提供、学習機会の提供、体験の提供地域資源へのアクセスの確保等を図ることにより、地域住民には地域への愛着心や誇りを感じてもらい、地域外の人達には地域の魅力を体験してもらうことにより、交流の増大とともに拠点の形成を図ることを目的としているものです。

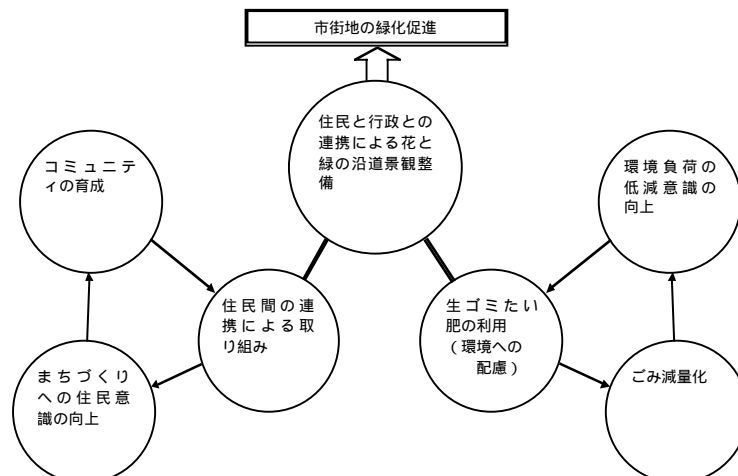
また、地域資源の情報提供、学習機会の提供、体験の提供等については、地域の住民ボランティア、NPOの協力のもとで行ない、住民のまちづくり活動参加や普及啓発の効果も期待しています。



地域コミュニティとともに育つタウン景観ネットワークの形成

～花と緑の回廊プロジェクト～

このプロジェクトは、行政と町内会等の地域住民とが役割分担し、家庭から出る生ごみの堆肥を使いながら、花と街路樹によるうるおいのある沿道景観づくりを行うというもので、市街地の緑化およびそれをきっかけとした地域コミュニティの育成や環境負荷の低減、ごみの軽減化といった環境意識の向上を目的としているものです。



西町地域：花のネットワークづくり

西町地域では、自然と花と共生する市街地の形成を実現化にむけた未舗装の区画道路を活用し、各家庭の軒先ガーデニングや沿道プランター設置などによる“花のネットワークづくりの推進”を重点方策とします。

東中地域：ポントワラマップ川周辺の散策路づくり

東中地域では、自然と触れ合う機会の増加に向けた“ポントワラマップ川周辺の散策路づくり”を重点方策とします。

東部地域：行政と地域住民の連携による街路灯の配置

東部地域では、安全で安心な環境づくりに向けた“行政と地域住民の連携による街路灯の配置”を重点方策とします。

中心部地域：花と緑によるまちの顔づくり

中心部地域では、緑と花に包まれたまちづくりに向けた“花と緑によるまちの顔づくり”を重点方策とします。

南部地域：武佐見散歩ルートづくりと沿道のごみ拾い等の環境美化活動

南部地域では、美しい武佐岳への風景を楽しめるまちづくりに向け、“武佐見散歩ルートづくりと沿道のごみ拾い等の環境美化活動”を重点方策とします。

西部地域：花や緑による良好な地域の景観づくり

西部地域では、環境美化に楽しく取り組むまちづくりに向け、“花や緑による良好な地域の景観づくり”を重点方策とします。